

機能美に特化した身障者と健常者が共有できる服の開発研究Ⅱ

—Development Studies a healthy person and a physically handicapped person
sharing clothes Specified for Functional Beauty II—大網 美代子¹, 武田 幸², 山本 正記³, 小川 雄司⁴, 土居 千夏¹, 児玉 育子¹
Miyoko Oami¹, Sachi Takeda², Masaki Yamamoto³, Yuji Ogawa⁴,
Chinatsu Doi¹, and Ikuko Kodama¹¹大妻女子大学, ²TAKEDA KIKAKU, ³尚美学園大学 (非), ⁴埼玉県総合リハビリテーションセンターキーワード：機能美, 共有できる服, ユニバーサルファッション, PBL型授業
Key words : Function beauty, Sharing Clothes, Universal fashion, Problem-based Learning

1. 研究目的

本研究は、商品開発と教育的視点を持ち、社会のニーズにあわせて「おしゃれの共有」の提案を行うものである。平成25年より、身体に障害のある人もおしゃれを楽しむことができる環境を目指して、機能美（機能美とは、障害に対応した機能にデザインを加えることをいう）に特化したデザイン設計の研究を継続している。身障者と健常者が衣服の共有ができれば、個別対応服のような高価格やおしゃれなデザインが少ないという問題を解決でき、「共有できる服」を健常者側に提案することで、アパレル企業に新たなマーケットの創成が可能であると考えられる。

平成29年度も引き続き、片麻痺による手・足の可動域、車椅子使用による座位姿勢に対応した機能を加えた「共有できる服」の機能とデザインを検証した。さらに、アンケートおよび聞き取り調査を行い、「共有できる服」の可能性を追求し、誰もがおしゃれを楽しむことができる衣服におけるバリアフリーの環境について考察をする。

2. 研究実施内容

「共有できる服」のデザイン設計

座位姿勢と片麻痺の人に対応したUNI FASHION (UNIVERSITYとUNIVERSALをかけた女子大生と障害者のおしゃれの共有)として、「magic of girls」をテーマに、機能美に特化したアイテムとして、セットアップ1点、トップス3点、スカート2点、パンツ2点のデザイン設計を行った。モデルの身体の状態は表1、3年ゼミナールの学生14名およびモデル5名の採寸表は表2の通りである。

パターンはマスターパターンを使用して、デザインに合わせてパターンメイキングを行った。衣服のサイズはワンサイズでどこまでカバーできるかを検討しており、今回はワンサイズで全員のサイズをカバーするデザイン設計ができた。

表2の学生のバストの寸法を見ると、最小値は75.0 cm, 最大値は90.5 cmで、その差は15.5 cmである。同様に、各採寸項目の差を考慮してデザイン設計を行った。

トワルサンプルを作成し、学生14名が8着を試着して、昨年と同様にサイズ、デザイン、機能、その他の4項目で評価を行った。試着観察では、片手で着脱したり、座位姿勢や日常的な動作を行ったりして着心地やゆとりを確認した。改善点について修正を行い、5名のモデルを対象にデザインに関するアンケートを行った(表3)。“着てみたいと思う服”トワルサンプルを選んでもらい、試着観察をしてそれぞれの機能についての検証および聞き取りの結果を反映させて、パターン修正ならびに素材の選定を行った(図1)。

表1. モデルの身体の状態

	性別	年齢	身体の状態
B-1	女性	19歳	右片側麻痺、右短下肢装具、杖で歩行可能
B-2	女性	17歳	右片側麻痺、短下肢装具使用で歩行可能
B-3	女性	18歳	右片側麻痺、言語障害が少しあり、右短下肢装具、杖で歩行可能、長距離は車椅子使用
B-4	女性	22歳	右片側麻痺、右短下肢装具、杖で歩行可能 長距離は電動車椅子を使用
B-5	女性	59歳	両足のサイム切断(足首部分での切断)で両側義足使用で歩行可能

表2. 採寸表 上段は学生 下段はモデル

採寸表	バスト cm	ウエスト cm	ヒップ cm	腰丈 cm	背丈 cm	総丈 cm	袖丈 cm	背肩幅 cm	背巾 cm	首周り cm	股上 cm	身長 cm	体重 kg	スカート丈 cm	靴 cm
A-1	82.6	64.0	86.1	18.0	38.2	141.4	54.0	34.1	33.3	35.4	28.0	162.0	50.0	63.0	24.0
A-2	82.0	67.5	87.5	18.0	38.5	141.0	59.0	36.5	31.0	37.0	24.0	163.9	51.0	59.0	24.5
A-3	80.0	63.8	86.0	24.0	35.0	133.5	52.0	37.0	36.5	37.5	27.5	156.2	46.0	56.0	23.0
A-4	87.0	65.0	98.5	24.0	35.5	141.5	57.0	38.0	35.0	42.0	31.0	167.0	57.0	64.5	24.5
A-5	84.0	67.0	94.5	23.0	36.5	136.0	53.5	43.0	38.0	39.0	27.0	160.0	49.0	62.5	23.5
A-6	83.0	69.0	87.6	18.0	41.0	140.0	53.0	41.5	36.5	38.5	27.5	161.0	47.0	62.0	23.5
A-7	80.5	66.5	91.5	21.0	41.5	141.5	54.0	34.0	30.0	37.0	22.5	158.5	48.5	56.5	23.5
A-8	86.5	68.0	95.0	22.0	37.0	135.0	50.0	38.5	37.0	32.0	29.0	157.0	52.0	61.0	23.0
A-9	76.0	59.0	88.0	22.5	35.0	135.0	53.0	40.5	37.5	33.5	32.0	160.0	47.0	64.0	24.0
A-10	90.5	69.0	94.0	23.0	36.0	138.0	51.5	40.5	34.0	39.5	27.0	159.0	58.0	59.0	24~24.5
A-11	75.0	62.0	82.5	21.0	33.5	137.0	55.0	37.0	33.0	29.5	25.5	165.0	47.0	64.0	24.5
A-12	82.0	65.0	89.0	21.0	39.0	137.0	52.0	38.5	36.5	32.0	31.5	158.0	50.0	61.0	24~24.5
A-13	81.0	63.5	87.5	22.0	36.6	133.5	53.0	36.0	35.0	39.0	27.0	158.0	45.0	60.0	23.5
A-14	89.7	67.9	96.3	18.0	38.5	144.0	54.0	40.0	39.5	39.8	28.5	166.0	60.0	63.0	24.0
平均値	82.8	65.5	90.3	21.1	37.3	138.2	53.6	38.2	35.2	36.6	27.7	160.8	50.5	61.1	23.8
最小値	75.0	59.0	82.5	18.0	33.5	133.5	50.0	34.0	30.0	29.5	22.5	156.2	45.0	56.0	23.0
最大値	90.5	69.0	98.5	24.0	41.5	144.0	59.0	43.0	39.5	42.0	32.0	167.0	60.0	64.5	24.5

採寸表	バスト cm	ウエスト cm	ヒップ cm	背丈 cm	総丈 cm	袖丈 cm	背肩幅 cm	背巾 cm	スカート丈 cm	身長 cm	靴 cm
B-1	83.0	69.0	92.0	35.0	135.0	52.0	38.5	33.0	54.0	153.0	右25.0~25.5、左23.0
B-2	83.0	65.0	88.5	35.0	138.0	51.0	42.0	35.0	57.0	163.0	右26.0、左24.5
B-3	82.5	71.0	96.0	38.0	144.0	53.0	39.0	34.0	56.0	160.0	右25.0~25.5、左23.5
B-4	82.0	69.0	85.5	31.0	127.0	49.5	36.0	31.0	53.0	145.5	24.0
B-5	99.0	84.0	92.0	39.0	137.0	52.0	39.0	35.0	50.0	155.5	22.5
平均値	85.9	71.6	90.8	35.6	136.2	51.5	38.9	33.6	54.0	155.4	

表3. デザインに関する調査 (モデル対象)

	セットアップ	トップス			スカート		パンツ	
		フリル	リボン	レースアップ	フレアスカート	タイトスカート	①	②
B-1	①	②脇が見えるのが気になる。					③	
B-2			①少し伸縮性のある生地が着やすい。	①少し伸縮性のある生地が着やすい。			②	①
B-3	①青系、ラベンダー色希望	③ダークな色(黒、紺、茶、紫など)希望			②			
B-4	②			③色はオフ白がいいかも。		①		
B-5			①				○紺などのスリムに見える色希望	①紺などのスリムに見える色希望
全体の○の数	3	2	2	2	1	1	3	2



図1 機能美に特化したアイテム

3. まとめと今後の課題

衣服は心と体を支え、笑顔を引き出す重要なツールとなっている。日本のアパレル業界の現状を踏まえ、誰もがおしゃれを楽しむことができる環境を目指して研究をしている、身障者と健常者が「共有できる服」は衣服におけるバリアフリーや人を理解し共に生きることを意味する。また、ファッションショーは、機能美に特化したデザイン設計の検証の場であるとともに、身障者衣服の現状を共有し、共に生きることを可視化することである。

本研究は5年目を向かえ、研究法やデザイン設計の手法も確立してきた。毎回年度末には、学内にて展示・ポスター発表を行いデザイナー・パタンナーによる外部評価を受け、商品としての可能性を検討している。「共有できる服」について、組み合わせのきくフルアイテムに今年度分を加えて再検討を行った。更に、今回は研究成果を紙媒体のリーフレットとホームページを作成して情報の発信を開始した。今後も新たなマーケットの創成の可能性を検証していく。

また、デザイン設計においては、過去のデータ

を基に構成・装飾の考え方を体系づけ、「主体的な学びのための持続的デザインシステム」戦略的個人研究と連動させてシステム構築をしていく。

平成29年11月、多摩校にて講演会「誰もがおしゃれを楽しむことができる環境を目指して—モノ・コト・ヒトをつなぐ「共有できる服」—」を行った。今後は学科連携や学部を超えて横断的な教育・研究を行っていきたい。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]服飾文化学会誌 平成30年投稿予定

②学会発表

[1]服飾文化学会第19回大会・総会 作品展示発表の予定 平成30年5月12日(土)・13日(日)、東京家政学院大学

③その他、ファッションショー

[1]今年度の成果発表として、平成30年3月24日(土)13:30 - 本学にてファッションショーを開催
[2]大妻祭 5年間の成果発表として 10月26日(土)・27日(日)開催予定